校長コラム　戸田市立戸田東小学校　校長　小髙 美惠子
戸田市立戸田東中学校　校長　鈴木　　研二
「校長２人の場合の学校経営」（併設型）

１．学校（区）概要

- 教育目標：グローバル社会で将来 豊かに生き 活躍できる児童生徒の育成
- 所在地　：埼玉県戸田市下戸田１－１１－１５
- 施設形態：施設一体型
- 児童生徒数（R3.5.1時点）

戸田東小学校　　戸田東中学校

	小学校								中学校					小・中計
学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	1	2	3	特支	計	
児童生徒数	196	196	214	160	182	158	10	1116	160	129	117	2	408	1524
学級数	6	6	6	4	5	4	2	33	4	4	3	1	12	45

２．導入経緯

【検討開始のきっかけ】
児童生徒数の増加と校舎の耐震・老朽化における建て替えのため
【具体的な経緯】
・平成30年度　　小中合同学校運営協議会の導入
・令和元～３年度　小中連携研究校として研究委嘱（戸田市教育委員会）
・令和２年度　　小中９年間の学びを見通した東雲カリキュラムの作成
・令和３年度　　新校舎にて小中一貫教育を実施

３．小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 義務教育９年間を見通したPBL・STEAM 教育カリキュラム「東雲カリキュラム」を作成し、「課題発見・解決能力、論理的思考力」を育むことでグローバル社会で活躍できる児童生徒の育成を図る。

教職員体制

- 校長：各校に配置
- 教職員：兼務発令なし

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：（教育課程特例校として、小学校第３・4学年　外国語活動（各７０時間））
- 区切り：６－３
- 学校行事等：ステージごとの学習発表会、小学校卒業式、中学校入学式

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：一部教科担任制（小学校第4年から理科、音楽科　小学校第５学年から国語、社会、算数、理科、音楽科、図画工作科、家庭科、外国語）
- 教員の相互乗り入れ：実施なし

児童生徒の異学年交流の工夫

- 児童会生徒会交流
- 小中合同避難訓練・引き渡し訓練
- 小中合同音楽会
- 小中合同委員会活動
- PBL学習交流会

市町村教育委員会等による支援

- 各校の特色ある学校づくりのため補助金を配当、取組を支援
- 小中カリキュラム研修会の実施（管理職・主幹教諭・教務主任・研究主任）
- 戸田東小・中学校に対する教育課程編成についての指導・助言

その他

- 小中一体の職員室・休憩室の設置
- 小中合同教職員研修会の実施

テーマ：～9年間を見通した探究的な学び、「令和の学校を創る」教職員集団～

9年間を見通した探究的な学び

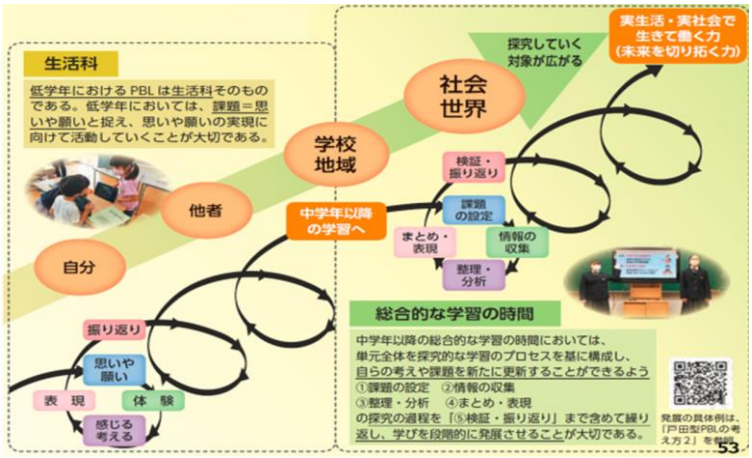
全国公立小中学校でGIGAスクール構想が始動した令和３年４月、「令和の教育」を実現する施設一体型戸田東小中学校が開校した。小学校と中学校の文化と伝統を尊重し合い、それをバランスよく融合しながら「令和の学校」「令和の学び」を新たに創り出すことが期待されている。

今後の社会は、Society5.0の到来などにより、AI Iot ロボティクス等の技術革新が加速度的に進んでいく。VUCAな未来社会で、持続可能な社会を創る主人公である子供たちには「AIでは代替できない力」「AIと共存、創発できる力」を身に付けることが必要だ。本校では、９年間を通して３つのスキル「21世紀型スキル」「汎用的スキル」「非認知スキル」の育成を目指す教育を進めてきた。そして「何のために学ぶのか」という学ぶ動機を獲得し、生涯にわたって学び続ける人に育てるためにも、学校教育修了後出て行く社会で役立つ資質・能力を身に付けるためにも、学校教育では、教室と社会、学びと実社会を結びつけることを常に意識していくことが重要と考えている。

戸田東小中の学びの中枢は、生活科や総合的な学習の時間を基軸にした９年間を通じた学び、PBL『東雲』である。『リアル』『横断的』『多様性』をコンセプトに、教科横断的なカリキュラムを組み、トライ＆エラーを繰り返しながら目的と対象と明確にした課題解決型探究学習を進めている。PBLは想定外の事柄に柔軟に対応できる力が必要とされる時代に生きる子供たちには、生産性の高い学びのカタチである。目の前の子供たちが、根拠をもって選択し行動する力、失敗を恐れずに最善を尽くす力、対立やジレンマを克服しながら協働的に取り組む力、さらにもっている知識やスキルを組み合わせて最適解を出せる力を身に付けて欲しい。PBLはそれを実現する『学び』である。

東雲カリキュラムには、９年間を貫く統一した『本質的な問い』がある。それは「ともに生きる社会において、人々が『幸せ』に感じるために自分たちでできることは何か」である。学習テーマは「健康」「安全」「食」「環境」「福祉」等々と多様に定めてはいるが、本質的な問いの対象は発達段階に応じて「自分や身の回りの人のために・・・」「学校生活において・・・」「地域の一員として・・・」「地球市民として・・・」とスパイラルに拡がっていく。

また、「プロジェクト型の学び方を学ぶ」ということにも９年間の縦の系統性を貫きながら進めることで、学びの連続性と深化を図っている。



<PBLの学びの成果
戸田市プレゼンテーション大会金賞>

そして今、戸田東小中のPBLをさらに進化するために、教科横断や創造性、テクノロジーの一層の活用という視点からPBLを見直し、STEAMへのトライを始めている。Intel、Adobe、RICOH Japan、Avalon等、企業のご協力をいただいたSTEAM Labでは、最先端プロ仕様の機材が配備され、子どもが夢を語り、ワクワク感を実現する場になっている。

今後の探究の各過程の質のアップデートが楽しみである。

＜子どもの可能性に蓋をしない＞私たちはこの言葉を心に刻み、教育の天気図を視野に入れながら、引き続き未来の創り手である子供たちがワクワクと無限大に育つ学校を創っていきたい。

「令和の学校を創る」教職員集団

◆学び合い編

９年間を通じた学びを目指し、令和元年度より小中学校の教員は合同で研究推進に取り組み始めた。小学校のきめ細かい指導と中学校の専門性を活かした指導を相互に学び合い、指導力の向上に努めてきた。また、小中合同の研究推進組織が中心となり、PBLのカリキュラム作成など理論面での研究を進めると共に、授業研究を通して実践面での研究も推進してきた。正に、小中学校９年間の系統性・連続性を踏まえ、令和の学びの実現に向けて、現在も日々、小中学校の教員集団の学び合いが行われている。

<STEAM Labでの
小中合同研修>

◆職員室改革編

本校は、小中学校の職員室も一体型となっている。小中学校のエリアは２つに分かれているが、その間をつなぐスペースには、 大きめのテーブルとスタンドテーブルがそれぞれ３台ずつ設置されている。小中一貫教育を進めていく上で、小中の教職員間での共通認識を醸成し、９年間の系統性ある教育目標や計画等を設定していくことが重要である。そのため、教育課程、生徒指導、教科指導、安全指導、キャリア教育、特別支援教育等の小中合同プロジェクトチームを設け、日頃から職員室スペースを活用しながら話し合いが進められている。研究推進や教科指導、生徒指導などの情報交換や協議が迅速にタイムリーに行われることで、教職員間の意思疎通が図りやすく、生徒指導上も適切に対応できる大きなメリットがある。そして何より小中学校という壁がなくなり、９年間で子供たちを育てていくビジョンとチームワークが深められている。

<職員室スタンドテーブルでの
小中打合せ>

<小中学校の職員室と共有スペース>